

## 文科省 海の活断層 全国調査へ

### 地震予測地図作製も

震度6弱以上の地震を引き起こす危険性が指摘されながら、過去にほとんど調査や研究が行われていない海の活断層について、文科科学省は今春から初の全国調査に着手することを決めた。

調査対象は、陸から30キロ以内の沿岸海域にあり、全長20キロ以上の活断層。最初の調査対象の候補には、神奈川県「三浦半島断層群」、山口県の「菊川断層帯」などが挙げられている。2007年の新潟県中越沖地震など、海底活断層が原因の大きな地震が相次ぎ、網羅的な調査が必要と判断した。海の活断層でマグニチュード(M)7以上の大きな地震が起きた場合、沿岸部で震度6弱以上の激しい揺れが予想される。

船からの音波探査で海底下の断層の様子を調べ、過去の地震発生履歴や予想される地震の規模などを探る。震度6弱以上の地震が起きる周期や今後30〜300年間に起きる確率を求め、地震動予測地図を作る。